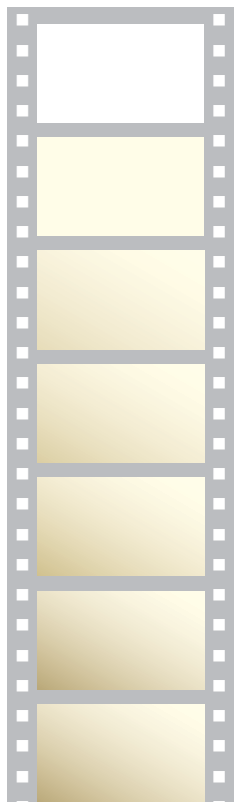
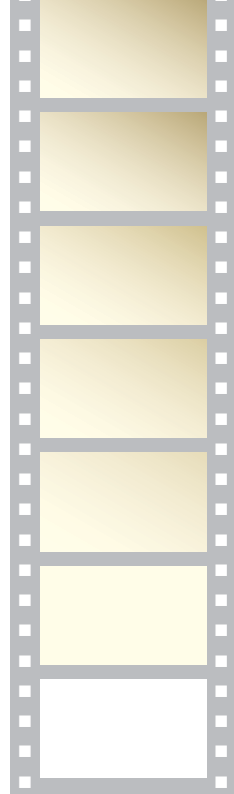


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第四十七回 「人生の行方」

大学の授業とクラブ活動（映画部）の2本立てだったぼくの大学生生活は、「あこがれ」の実現へ向けて大きく動き出しました。

DJのまとめ役、Kさんが名付けたDJグループの名は「ジェルボイス」（宝石の声）。その仲間になろうと、Kさんが指導する講習会に参加して来た人たちはさまざまでした。

アナウンスを目指す高校生にとって一番の目標は、NHKのアナウンスコンテスト。

Kさんは民間放送のアナウンサーとして、女子高生から人気があり、過去にKさんのアナウンス指導を受けたことのある人（短大生、OL、大学生）を中心に、ぼくのような全くの素人も含め10人程が講習を受けに来ていました。

講習の内容は「口の体操」^{クチ}「早口ことば」^{ハヤクチ}の基本から始まりました。場所は「喫茶R」3階の事務所、時間は午後5時からでした。「口の体操」の一部分を次のページ

に掲載しましたが、このほかにも発声の言葉は続くのです。

◇口の体操

ア	エ	イ	ウ	エ	オ	ア	オ
カ	ケ	キ	ク	ケ	コ	カ	コ
サ	セ	シ	ス	セ	ソ	サ	ソ
タ	テ	チ	ツ	テ	ト	タ	ト
ナ	ネ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ナ	ノ
ハ	ヘ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ハ	ホ
マ	メ	ミ	ム	メ	モ	マ	モ
ヤ	エ	イ	ユ	エ	ヨ	ヤ	ヨ
ラ	レ	リ	ル	レ	ロ	ラ	ロ
ワ	エ	イ	ウ	エ	オ	ワ	オ

以下続く…

「早口ことば」は、実際に早口で読むのではなく、口の体操をしながら早口ことばを「ゆつくりことば」で発声し、大きな声をおなかから出す腹式呼吸にしているのが基本の練習でした。

最初、たくさんいた受講生も1人減り、2人減り、残ったのは半分の5人でした。ぼくたちが講習を受けている間、「喫茶R」本番のDJを担当したのは、Kさん自身、Kさんの奥さん、Kさんの知っているアナウンスコンテストの経験者（OL）でした。早く、一人前のDJになろうと講習を受けているぼくは、家に帰っても発声練習を続け、やつと声も出て来た頃、先輩が1人でやっているDJの手伝いをしながら、機械の操作や番組の作り方を覚えていったのです。

ところで、広島県出身のKさんはT放送にアナウンサーとして6年務め、脱サラをして、アクセサリーの店を起業した人ですが、この店はいままで言うキャラクターグッズの専門店で、昭和40年代では、仙台市内に一軒だけの珍しい店でした。

仙台市内のメインストリート、東一番丁の横通り虎屋横丁角の果物屋さんから2軒目に店がありましたから、街に出る若い女の子たちなら必ず立ち寄るアクセサ

リーとギフトの店でした。

Kさんは二足のわらじを履いたことで多忙になり、ぼくに「アクセサリー屋の店番を手伝ってほしい」と言ったのです。ぼくもKさんのアナウンスは好きでしたし、勉強にもなると思い、1時間100円で店番のアルバイトを引き受けたのです。

大学生、クラブ活動、DJアルバイト、アクセサリー屋の店番と、大学2年（19才）の秋からぼく的生活は大きく変わっていったのです。

〈続〉

伸

平成24年7月